

平成18年12月20日

〒590-0494
京都大学原子炉実験所
助手・小出 裕 章 様

〒177-0041 4-25
蒼天社政治情報センター
代表・石川 鐵 也



公 開 論 議 書 II

平成18年12月8日第585-31-29494-2号及び14日第679-10-85521-3号配達記録郵便での公開論議書に対する反論書(12月18日付)を拝見しましたが、「石川さんも今回の『論議書』をもってやり取りを終了するとのことで、それで結構です」と記されていたのには驚きました。

私は、「質問を終了させ、小出さんの意見に対する私の見解を述べさせていただきます」と記載したはずです。故に「公開質問状」ではなく「公開論議書」と題したのですが、何故、今回の論議書をもってやり取りを終了する、などと解釈されたのか不思議でなりません。私は、これからが議論の本番と認識しています。

よって、これまでの要点について議論を続けたいと思いますが如何でしょうか。前回の私の主張をもよく確認なされ、再反論いただければ幸いです。

— 記 —

1. 小出さんの主張「原子力発電を即時停止し、太陽エネルギー発電に移行するまでは化石燃料で発電する」について

小出さんの主張(直ちにエネルギー消費を2分の1にできる道理がありません。国のエネルギー政策を変えるためには長い年月が必要。政府がしっかりした政策を作る必要があります)には同意します。

しかし、だからといって、「原発を即時廃止して火力発電に変える」には賛成できません。現在、貧資源国である日本は、より多くの発電手段を用いる必要があると認識しているからです。故に私は、原発推進派というよりも原発容認(現実派)だと自覚しています。スウェーデンの原発全廃政策がいまだに実施されない現実、ドイツの脱原子力政策の現状、そういった事実を鑑みれば、「原発即時停止など夢のまた夢」と断じざるを得ません!

小出さん、日本は民主国家であり独裁国家ではありません。例え、政府がしっかりした政策を作ったとしても、それを国民に強要することはできないのです。小出さんも承知しているように、一步一步、確実に進めるしかないのです。

私が日本だけの利益しか視ていないと決めつける前に、是非とも現実を直視してください。そうすることによって、現実的な一歩が踏み出せると思います。

2. 小出さんの主張「今後の研究で地層処分よりましな処分方法が見つかる可能性はあるのだから、今、安全の保証ができない方法で埋め捨てにしている」について

私は、単に小出さんを批判している訳ではありません。一つの事実をお知らせしたのです。小出さんに指摘されるまでもなく、嫌われる程に、政府強権派や不作為派にも指摘していますし、その事実、複数の元・現町村長らが承知しています。

原発がこれほど多く活用され、放射性廃棄物が既に存在する今日において、「安全に始末する保証ができないようなごみは生むべきでないし、原子力はやめるべきだ」と唱え、これが私・小出の代案だと言われても、常識ある人々には理解されないでしょう。

また、小出さんは「3つの余裕」問題について、「議論の相手を間違わないようにお願いしています」と述べておりますが、一体誰に、何をお願いしているのでしょうか。是非ともこれまでのやり取りを読み直して下さい。

3. 小出さんの主張「火力発電設備に余裕がある」について

火力発電設備に余裕があったとしても、燃料が安定確保できなければ何らの役にも立たないことをご理解下さい。小出さんには理解できないのかも知れませんが、設備の確保も重要ですが、燃料の安定確保はより重要なのです。

4. 小出さんの主張「原子力発電は安定電源ではない」について

小出さんは、「どうして石川さんが事実を認めないのか不思議です」と述べていますが、小出さんの主張（「2002年に東電のデータ隠しで東電の全原発が有無を言わず一斉に停止した事実を確認することが容易です」）が「虚偽故に」と言わざるを得ません。

前回、小出さんの言われるように「有無を言わずに一斉に停止させた事実」など存在しませんから、有無を言わずに停止した事例など示せるはずありませんと書いたのです。

しかし、小出さんが何度も虚偽を主張されますと、知識のない読者を騙す結果となりますので、ここに事実を明記します。小出さんの好きなデータも公表されておりますので調べてください。

原子力安全・保安院の要請を受けた東京電力は2002年12月12日、「運転中原子力発電所の格納容器漏洩率検査のための停止計画書」を同院に提出、当該計画に基づいて、03年1月7日・福島第二1号機及び柏崎刈羽4号機、1月27日・柏崎刈羽6号機、2月11日・福島第一5号機、3月1日・柏崎刈羽5号機、3月29日・柏崎刈羽7号機、3月31日・福島第一2号機、4月15日・福島第一6号機（他は定検中等で停止中）と、計画的に順次停止させたのです。

小出さん、これが事実です。小出さんの主張は虚偽です。東京電力は、「計画性をもって、計画的に停止し、稼働させた」のです。常識ある人々には、これが「安定電源の定義」であることを理解されるはずですが、小出さんにはこういった道理を理解されないのでしょうか。

5. 小出さんの主張「資料・データ」について

火力発電設備の有無を争っている訳でもありませんし、ウランが無尽蔵に入手できると言っている訳でもありません。まして、「原子力発電さえあれば未来永劫大丈夫」と言っている訳でもありません。前記3及びこれまでのやり取りを読み直せ

ば、「小出さんのデータを虚偽」だなどと主張しているのではなく、「これだけでは電源変更の根拠にはならないのでは」といった疑問を投げかけているのだと理解されることでしょう。

6. 小出さんの主張「学問は多様性こそが命です」について

学者、研究者でない私は、小出さんに「原子力を安全なものにしたいと思われるのであれば、石川さんご自身がそうすることをお勧めします」と指摘される以前から現状を鑑みて、原子力をより安全にしたいと願い、関する人々に対し、「昨日の100パーセントは今日の100パーセントに非ず。今日の100パーセントは明日の100パーセントに非ず。そういった気持ちを持続させなければならない」と説き続けています。

小出さんは、火力発電設備数をもって原発の廃絶を唱える様ですが、私は、原発の代替エネルギー源が具体的に確保できる様になった時点で原発廃絶を唱えます。

7. 小出さんの主張「何らのベネフィットも受けないままリスクだけを過疎地の住民に押し付けている」について

私は、一つひとつの事実を積み重ねているだけです。それとも、利益を受けている人々を地域住民とは認めないのですか。「住民の中にも利益を受ける人々がいるのも事実です」といった事実を述べて、何故、「・・と書く神経が知れません」と批判されるのでしょうか。小出さんも、「ベネフィットを得るためには、仮にとてつもないリスクであっても、きちんとそれを把握した上で受け入れるという選択はあり得ます」と認めているのではありませんか。タクシー運転手は、自分なりに理解し納得しているのです。

8. 小出さんの主張「質問状に対して私は回答を送りましたが、その回答では不満だという石川さんから、以降も質問状が届き、すでに5回にわたってやりとりをしています。そのやりとりは、今後もまだ続くかもしれません。このような論争にどれだけの価値があるか、私自身は首をかしげていますが」云々について

今般の小出さんの主張（「読者に判断してもらいましょう」）に同意します。

9. 小出さんの主張「石川さんの言う『外交の要諦』はかって日本が世界の強国になろうとしてアジア諸国を侵略したのと同じ論理です」について

小出さんは悪意を持たれているようですね。私がいつ、「カナダ、米国が友好国で、インドネシアやロシアは敵国だ」と論じたのですか。資源を有する国が外交手段として活用している、といった事実を述べているだけです。

広島市や長崎市に聞いて下さい。私は、「例え、政府が核兵器の開発を実行しようと画策しようとも、学者、技術者が協力しなければ事はならない」と説き、核兵器の製造、所持に協力しない六ヶ所村決議も提言しました。「外交の要諦」と書いたのは、その事実を伝えたかったからであり、侵略を擁護した訳ではありません。小出さんの勝手な憶測は、迷惑以外のなにものでもありません

10. 小出さんの主張「（失礼。こういうやり取りはお互いの品性が下劣になりそうで

よくないですね・・) もし、石川さんが私の回答が『質より量』だと思われるのであれば、お読み下さらなくてもいいと思います」について

「私自身は石川さんとの論争をしていると、私の品性まで下劣になるように感じます」と述べておられますが、それは小出さんだけの思いではありません。というよりも、それが感情を有し、唯我独尊と自覚する身勝手な人間の本音なのです。

日本は独裁国家ではありませんし、小出さんも独裁者ではありません。世の中十人十色です。見解の異なる者と論議する度に、品性の下劣を訴えるようでは、講師、助教授の道が閉ざされてしまうかも知れません。今後も宜しくお願いします。

以上